

# 長畝ふるさと通信

【2014年5号】

## ■ 5月は田植え三昧です！

今年市要請で酒米「五百万石」を10haほど作付けし、総田植え面積は約84haとなりました。田植えのスタートは例年通り5月6日、念願の8条田植機(右写真)を導入し、苗の生育も順調で、スムーズに作業が進むと思われましたが、以前お伝えしたとおり今年は雪が少なく、4月もほとんど雨らしい雨が降っていません。農業用水のほとんどをダムに頼っているのですが、5月はじめのダムの貯水量はすでに50%を割り込む状態でした。そこで田植え前には異例の「配水エリア制限」が設けられ、1日置きに水の出るエリアが制限さ



れる事態となり、いつもなら順序よく進む田植えが一日おきに飛び地的な植え方をせざるを得ない状況となりました。田植え中も雨はほとんど降らず、毎日紫外線との闘いで、顔は見る見る黒くなります。22日には全ての田植えが終了しましたが、その間休みはたったの1日。朝の7時から夕方6時まで田植機に乗りっぱなし…さすがに疲れました。



田植えは何とか終わりましたが、今後の心配はやはり「水」です。5月も本格的に雨が降ったのは2日程、今でも配水制限は継続されており、十分な水は確保されていません。雨乞いが必要かもしれません…

育苗ハウスにいた「モリアオガエル」です。アマガエルより大きく、独特の鳴き方をします。田んぼに面した木の上に泡状の卵を産むことで知られていますが、佐渡では田んぼの畦に卵を産みます。外敵が少ないと言うことでしょうか。彼にも雨を降らせるようお願いしました。



## ■ 子供たちと田植え体験



途中、頭上を1羽のトキが飛来し「あつキだ」とみんなが空を見上げるとそこには「逆さ虹」がくっきりと浮かんでいました。



毎年「佐渡キッズ生きもの調査隊」で田植えの体験学習をしています。この日も20人くらいの小学生が参加しました。裸足で田んぼの中を元気に駆け回る子、田んぼに足を取られながらもかたくなに長靴を履いたままなかなか前に進めない子、自分のペースで一心に1列だけ苗を植える子など様々。



田植えの後に田んぼの生きもの調査をします。こんな小さな子も参加して、泥だらけです。ムチムチしたかわいらしい手でオタマジャクシを鷲掴みにしていました。オタマジャクシにとっては残酷ですが、将来が楽しみです。

## ■ トキの巣立ちも順調に・・・

5月末現在、野生下のトキ3組の巣立ちが確認されています。そのほかに営巣確認されているペアが12組、うち9組で育雛、2組で抱卵が確認されているそうです(環境省発表)。これで野生下に放鳥されたトキは142羽、うち81羽の生存が確認されているそうです。

うちの裏の田んぼにもほぼ毎朝トキのペアが餌を食べにやってきます。臆病でなかなか人には慣れない鳥ですが、愛着は沸いてきます。同じお米を作る仲間だからでしょうか。みなさんも仲間になって下さい。

